

お祭り
お祭り

村上第一中学校

村上市公式キャラクター サケリン

村上には3つの「サケ」があります。

「酒」と「鮭」と「情け(なまけ)」です。



道の途中で①～⑤を探してね。一体なんでしょう？



ゆるキャラグランプリ2015

1105位

1727エントリー



★ 鈴木漆器店 (漆器)

「彫り」から「塗り」まで全てご主人が手作業で行っている。にも関わらずお手軽価格のオリジナル作品もあり。オーダーも可能。朴(ほお)、栃、桂の木を使用。村上堆朱は「彫り」があるため、柔らかさも大切になる。

★ えびすや (道具)

店名は商売繁盛の神「恵比寿様」にちなんで名付けられた。昭和20年頃に店を始めた。「くぎ」を使わない。おすすめ商品は「トンボ」。バランスを保って揺れる。トンボは「勝ち虫」と呼ばれ。縁起がよい。店内の絵は肴町の屋台の天井画をご主人が2日で模写した。



★ 吉川酒舗 (酒)

創業は340年以上前。現在の建物は1826年に建てられた。町屋作りの古い家屋を見学できる。祖先は「書」を好み、漢学者と親交があった。屏風は、頼支峰(らいしほう)という漢学者から友好の証として贈られたと言われる。



★ 村上コミュニティデイホーム (憩い所)

町屋の観光施設であると同時に、常に市民が憩いの場として活用している。(ダンス・おしゃべり・折り紙など)塩町にあった家屋を移築し、家主が村上に寄贈。築100年以上。



★ てんや味噌醤油店 (味噌/醤油)

塩分が少なく、木桶で2年間熟成させる。創業約300年の老舗。村上の料理には欠かせない。



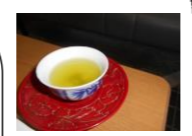
肴町

鍛冶町

W.C

★ やまきち (アートギャラリー)

建物は国の有形登録文化財。かつては鮭漁の網元であり、魚の加工販売をしていた。鮭を吊した棒や屋号の看板など、その名残がある。平成13年に町のギャラリーとして生まれ変わった。屏風祭り期間中、四季の屏風を飾る。



★ 常盤園 (茶)

茶の間は明治時代約130年前に建てられた。梁や柱は建築当時のもの。明治初期に輸出用に使われていた茶箱がある。他にも缶や壺など展示されている。大正から昭和のレツテルが多い。



★ 山上染物店 (染め物)

350年以上の歴史がある。建物は国の有形登録文化財。築150～160年。昔、囲炉裏やかまどで薪を焚いた名残りが、壁や梁、天窓にもある。「法被」や「のれん」「手ぬぐい」を染めている。村上には多くの祭りがあるので、多くの人が「法被」を持っている。看板犬がいる。お茶染めの商品も村上土産としておすすめ。

★ 孫惣刃物 鍛冶(刃物)

1988年まで7代続いた。鍛冶町で最後の店。鍛冶場には当時の道具がそのまま残り、まるで博物館のようだ。刀以外どんな注文も受けたという、先代の写真有り。



村上 堆朱

★ 堆朱のふじい (漆器)

45年前から店を営んでいる。品質にこだわり、品数豊富。赤いものだけでなく、様々な技法による黒、黄、緑などの作品もある。村上では良質の漆が産出され、その文化は鮭文化より古い。

★ 石崎米店 (米)

江戸時代から続く米屋で現在のご主人は8代目。昭和初期のレジスターは珍しい。古い手桶には漆が塗ってある。棟上げの時、餅を入れるために使う。



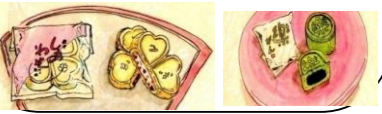
★ イチキ矢部 茶店 (茶)

六角形の木箱の中にはお茶をひく石臼が入っている。昔ながらの「お茶壺」や「秤」にも歴史を感じる。板場の角に丸みを持たせている。



★ 角銀 (和菓子)

社長こだわりの「あんこ」は全て国産豆を使用。豆の味が濃厚。店先にある「かみしめて、どこの銘菓とぎんみする」の言葉は石黒敬七氏(柏崎市出身の柔道家・随筆家)によって書かれた。「鮭サブレ」…鮭フレーク入り。ゴマ味もある。村上土産にどうぞ。「楽がん」…一番人気。抹茶の香りが好評。村上茶によく合う。「しあわせ最中」…四つ葉のクローバーの形。4つに割ると一口サイズのハート型になる。お祝いごとに大好評。



屋号とは…

各家々を表すマークのこと。特に商店のほとんどは持っている。店の看板にはもちろんのこと、下駄など生活道具に記し、どの家の所有物か一目でわかる。



↑「ヤマ」
↑「カネ」

簡単だ



村上弁 いろいろ



たくさん

面白い



当たり前



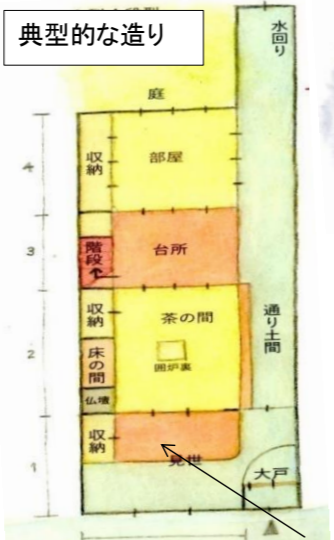
持つ



村上の町

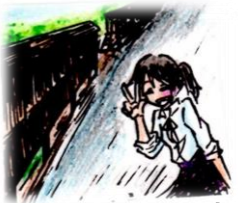


道路に対して平行で、隣と隙間なく並ぶ。
そのため側面の窓をつけることができず、吹き抜けと天窓から光を入れた。
江戸時代は殿様行列を見下ろさないように、二階を造ることが禁止されていたため、「厨子二階」と呼ばれる物置に使用する軒の低い階が造られた。今もその名残がある。
間口が狭く、「うなぎの寝床」と呼ばれる造りだ。



宵の竹灯籠祭り

2002年に始まり、毎年10月第2土・日曜日に開催される。黒塚プロジェクト(→*参照)が進行するなか、竹灯籠の明かりで更に美しい景観を作り出そうと地域の人々が立ち上がった。約10,000本の竹は全て近隣の竹林からボランティアによって切り出される。寺院などを会場にして音楽コンサートも開催される。演奏者は地元小学生や市民、プロの音楽家など様々である。



* 黒塚プロジェクト

昔の城下町の景観を市民の手で復活させるプロジェクト。1000円の寄付で黒塚1枚を設置できる。現在約420M完成。進行中。

★ 九重園 (茶)

江戸時代創業。喫茶室が奥にあり、その座敷は大正時代の造りである。店外にある車輪はお茶を運んでいた大八車のもの。お茶作りは自然相手の大変な仕事だが、「おいしい」と言われると苦勞が報われる。漢方としても効用がある。



“見世”と呼ばれるこの場所は、商品が置かれたり、接客に使われる。



★ 割烹 新多久 (食事処)

黒塚通りの中心に位置する老舗割烹。町並みの風情を味わいながら村上の旬を存分に楽しめる。苔庭など景観にもこだわりがある。90才になる祖母が描いた絵屏風や現代の詩屏風が飾られる。



★ トラヤ (パン/お菓子)

創業110年以上。親子三代続く老舗。無添加にこだわっている。現ご主人の祖父七郎さんが昭和3年に村上へ移った。ご先祖が福島県出身で、「白虎隊」にちなみ店名を決めたと伝えられている。



小国町

お茶の製造工程

茶葉を刈る→蒸す→冷却する→揉む→乾燥する→切断する→選別する→火入れする→異物を除去する



村上には北限の茶処です。

江戸時代の重要拠点

「番所」(現在の警察・検問所)と呼ばれた。少しずれた形の十字路で、道幅は当時のまま狭い。この形は城下町特有のものである。



★ 山貝様宅 (旧みやこ屋)

25年前までお菓子屋だった。菓子製造のための木型が衝立になっている。鯛・海老・鶴・亀・富士山などおめでたい木型がある。家屋は昔着町で旅籠屋(はたごや)だった家を移築した。骨組みは140年位経っている。村上出身の豊島停雲の絵屏風が飾られる。

★ 割烹 吉源 (食事処)

江戸時代後期から180年の歴史を持つ。現在のご主人は6代目。村上牛の炭火焼きや、三面川の鮭料理など、旬の食材を味わえる。安積良齋(あさかごんさい)の字屏風がある。建物は国の有形登録文化財。

村上の鮭料理

伝統の「塩引き鮭」が有名。各家庭で作ることも多い。尾を上、頭を下に吊すのは「首つり」を連想させるため。腹を全て割かず、一部残しておく「止め腹」という切り方をするのも「切腹」のイメージを忌み嫌う城下町ならではの文化である。鮭は捨てる場所がないと言われ、全ての部位に調理法がある。村上っ子は鮭の心臓を「どんびこ」いくらを「はらこ」と呼ぶ。

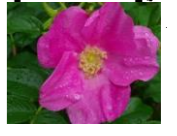


村上市のシンボル

木…「フナ」
水を貯める機能が高く、表土を安定させる。自然災害を防ぐ役割を果たす。

花…「ハマナス」
海岸一帯に群生する。自然環境が保護されている条件で育つ。

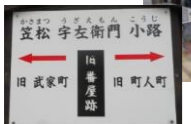
鳥…「クマタカ」
市内で人里近い広葉樹林で飛ぶ姿が見られる。



～参考・引用・資料～
「む△m」
長岡造形大学
村上広域観光ブランディング・デザイン研究会

この地図作成にあたりましては、多くの皆様から温かな御協力をいただきました。一同、心より感謝申し上げます。

製作:
村上南小学校
村上第一中学校
村上高等学校 平成25年10月



鮭の日は何月何日でしょう?

旧武家町へ